まち紀行

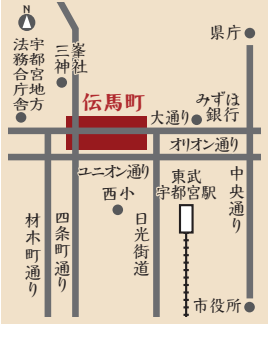
伝馬町（でんまちょう）

現在の泉町・伝馬町辺り

古いまちの呼び名と
こぼれ話を紹介します

▲伝馬町屋台を中心に集う人々

◀うちわを降らせてみこしを活気付ける



この付近は、元和５年（１６１９年）、宇都宮城主・本多正純による城の大改修の時に、問屋場（人馬や駕籠などを用意して旅人の便宜を図ったところ）がこの地に移転されました。また、日光街道と奥州街道の分岐点に当たり、荷を運ぶ人馬（伝馬）が備えられていたことから、この町の名が生まれました。町内には、大名などが泊まる本陣をはじめ、たくさんの宿が軒を並べ、城下では最もにぎやかなところでした。

伝馬町には代々、屋台が受け継がれています。この伝馬町屋台は、屋根には金の竜が乗り、周りには鳳凰や獅子、カニなど絢爛・緻密で遊び心ある彫刻が施されており、県の有形文化財に指定されています。

現在では、伝馬町は住民が少なくなり、高齢化するなどの悩みもありますが、郊外に引っ越した人たちも、祭事などの町内の行事には戻って来て手伝ってくれますので、町内の和や絆は、とても強いと思います。

先人が残してくれた、屋台などの形ある文化だけでなく、町内の和や絆という、目には見えないけれど大切な生活文化を、次の代、またその次の代へと継承していけるようにすることが、私たちの努めだと思っています。

伝馬町自治会 会長

上野　菊雄さん